



No. 90

地元の素材を生かして起業 オーストリア発さわやか飲料

今回はドイツの南のオーストリアからの話題。若者ふたりが起業した飲み物が注目を集めている。

熊のロゴが目印のブランド「バエルンシュタイン」。若い緑色のコーヒー豆と地元のハーブをいかした飲料で、これまでオーストリア国家賞など4つの賞を受けた。

創業したのはルーカス・レンツさんとマーティン・パウルさんで、現在21歳。2015年1月より商品開発を始め、5月とともに19歳で会社を起し、販売を開始した。レストランやカフェなどに卸しているほか、インターネットでの小売もしている。この1年半で13万本以上を販売し、社員は6人になった。

もともと二人は、調理や給仕、観光を学ぶ職業学校を卒業。

価値あるものを提供したいという思いから始めた。「オーガニックでフェアトレードの若いコーヒー豆を使う」という独自のアイデアに加え、イタリアのハイビスカスで赤い色を出した。そこにオーストリア伝統的ハーブや、おばあちゃんの味といわれるホルンダー、中世のころから酢の代わりに使われてきたブドウ汁を加えた。

「市場に出回っている清涼飲料水は色つき砂糖水で、価値はない。本物の材料を使い、本当によい飲み物を提供したいと思った」とルーカスは話す。ちなみにルーカスは、2015年私と一緒に多摩で講演したフランツ・レンツ教授の甥である。

液体は赤く透き通って美しい。アルコールに混ぜて、カクテルにするのもいい。パーティや結婚式ができる地元の古城レストランでも人気である。現在は1種類だけだが、2017年にはもう1種類増やし、数年内に3~4種類にしたいと考えている。海外展開も視野に入れており、「この飲み物を愛し、ぼくたちの哲学を理解してくれる販売パートナーを募集中」とのこと。日本のみなさん、いかがでしょうか。ルーカスのきらきらした瞳を見ると、夢があるっていいなと思う。 公式サイト <http://www.baernstein.at/> (ドイツ語)



ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



ドイツの小学校は4年生までで、5年生から高校3年生まで同じ学校に通います。4年生の明は6月に小学校を卒業するので、次の学校を探しているところです。体育教師かレゴを作る人かNASAを目指しているので、大学入学資格の取れるギムナジウム校に行かねばなりません。他に、高卒で職人など就職を目指す、基幹学校や実践学校があります。

市内には10ほどギムナジウムがありますが、日本のように序列はなく、理系が強い、音楽や演劇に力を入れている、スポーツ強化クラスがある、国際交流に熱心などそれぞれ特色があります。希望校複数に申し込みができますが、第一希望に通信簿の原本を提出し、残りはコピーを出しますから、学校側も生徒の本気度がわかります。学校は通信簿を見て生徒を選び、入試はありません。2月は学校の説明会が目白押しで、6月初めまでに申し込みます。明は友達と同じ学校がいいというだけで、どこがいいかわからない。最近10歳で進路を決めることの是非が問われ、14、15歳以降に学内でコースが分かれる統合学校が増えてきました。ちなみに学費は大学まですべて無料です。